

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703022
法人名	医療法人 権頭クリニック
事業所名	グループホームもやい
所在地	福岡県北九州市八幡西区竹末1丁目10-15
自己評価作成日	平成28年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年12月5日	評価結果確定日	平成29年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームもやいでは、特に個別支援に力を入れており、ご本人様やご家族のご要望を取り入れた支援を地域交流と兼ねて行っています。また、もやいでの日常をブログにアップしており、皆様のご生活の様子を発信しています。もやい内で耳を澄ませば、入居者様と職員の笑い声が絶えず聞こえており、明るい雰囲気のグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

どこか懐かしい日本家屋をイメージさせる居住空間は親しみと生活感があり、開設して12年目を迎えている事業所である。現在、担当職員が本人、家族より情報を聴き取り、個別支援計画を作成し、月に1回、個別の外出支援に取り組んでいる。思い出の場所や興味のある場所等、家族の協力も得ながら支援を行っている。関連する法人全体で地域交流や貢献活動、情報発信に力を入れており、特徴的な取り組みも多い。事業所としてもブログを開設し、日々の様子を伝えている。経験豊富な職員も多く、母体となる医療機関との密な連携を図り、地域の中での「暮らし」の継続を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員が理念を意識出来る様に見やすい所に配置したり、名札の裏に理念を張り付けており理念の基に実践している。	グループホームとしての理念は、目に付きやすい場所への掲示や職員の名札の裏に携行する等、理念を意識した支援につなげる取り組みがある。現在、月に1回の個別の外出支援に力を入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園清掃においては地域の方と一緒に清掃活動を行っている。龍王神社のカラオケ大会においては地域の方と一緒に参加し交流を図っている。また、ボランティアの受け入れも行っている。	自治会に加入している。2ヶ月に1回、入居者の方々と共に公園清掃に参加し、地域の方と顔なじみの関係が築かれている。また、回覧板の情報から地域の龍王神社のカラオケ大会に家族と共に参加し、特別審査賞を受賞されている。法人として、地域に向けた情報発信に熱心に取り組んでおり、特徴的な取り組みも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	竹末市民センター祭りへ入居者の方が作成した貼り絵を展示する事でもやいという場所を地域の方へ発信し、祭りにも参加し地域の方とふれあう事で認知症に対する理解に繋がる様に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、民生委員、地域包括センター、小学校校長、市民センター館長等に参加して頂き、各事業所の近況報告地域情報共有を行いサービス向上を図っている。	関連法人の地域密着型事業所が合同で運営推進会議を開催している。町内会長、自治会長、市民センター館長、小学校校長、町づくり協議会、消防署、協力医、地域包括支援センター等、地域より様々な立場の方々の出席を得ており、地域会議の様相も見せる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議においては、地域包括支援センター、市民センター館長からの助言や情報を頂き事業所との協力関係を築いている。	運営推進会議には、地域包括支援センターや市民センター、小学校校長の出席を得ている。ゴミ出しの際のクラス対策等について、具体的なアドバイスを頂いている。また、ケースワーカーの方が毎月訪問しており、情報共有や連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回のミーティングにて身体拘束・廃止防止委員会を立ち上げどのようなケースが身体拘束にあたるかを職員で話し合い共有している。	身体拘束廃止防止委員会を立ち上げ、毎月1回、現状を振り返る機会を設けている。事業所の内部研修や医師会主催の多職種研修会にて学ぶ機会を確保し、職員の意識や理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する内部研修を行っている。また、研修に参加出来ていない職員は議事録を周知する事で虐待防止の意識を高めている。また、入居者様の発するサインにアンテナを張っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度についてご家族様が面会に来られた際にすぐ目につく様に玄関先に資料を配置している。また、内部研修を行う事で制度についての知識を高めている。	今年度の研修計画の中で、権利擁護に関する制度について複数回の研修を実施し、社会的な課題として報道資料等も用い、理解を深めている。現在、制度を活用している方もおり、資料を整備し必要時には情報提供を行えるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約するにあたり重要事項説明書を入居者様、ご家族様に一つ一つ丁寧に説明している。不明な点があれば納得して頂ける様に心掛けて説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会や電話連絡により色々な意見や要望をお聞きしている。昨年はもやい10周年の食事をを行い入居者様、ご家族様とのコミュニケーションを図っている。	事業所便りを発行し、日常の様子を家族に伝えている。昨年は事業所設立10周年の行事として家族との食事を開催し、コミュニケーションを深める機会となった。今後も継続していく予定である。家族来訪時に、日常的な散歩や外食等について提案を受け、現在、個別の外出支援に力を入れている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングにて職員の意見が活発でありその意見を法人本部へ吸い上げられる様に努めている。また、職員の意見を生かした取り組みが行っている。	月1回のミーティングを実施し、職員の意見や提案を求めている。活発な意見交換が行われ、事案によっては法人として検討され、フィードバックされている。日常的にも活発な意見交換やアイデアが出されており、風通しの良さがうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員が日頃いいにくい事を言える様な環境作りに努めている。また、代表者と職員が個別面談を行う事により職員が働きやすい職場になる様に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては事業所としてふさわしい人材であれば採用している。定期的な内部研修及び外部研修を実施している。働きやすい環境整備として保育所と設置、産休の取得やスタッフの気分転換の一環としてプロのマッサージを配備しいつでも受けられる様にしている。	近隣の関連法人施設には保育園が設置され、育休の取得や復帰に向けた配慮が行われている。また、ストレスケアとしてプロのマッサージが無料で受けられる等、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。外部研修(実務者研修・喀痰吸引・リーダー研修も含む)の参加に向けて、費用や勤務に関するサポートも実施されており、個別のスキルアップを積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に内部研修や外部研修に参加する事で人権教育、啓発活動に努めている。	外部研修や法人内研修、各事業所での研修を通じて、様々な視点から職員に対する人権教育、啓発に努めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回のペースで内部研修を行ったり、職員各々に応じた外部研修に積極的に参加する事により働きながらレベルアップに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と月一度市内の4法人で作るユニットイン北九州にて4事業所持ち回りにて研修会を行う事により切磋琢磨しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するにあたり本人様が1日でも早く生活に馴染んで頂く様にスタッフ連携をとり環境作りに努めている。本人様からサインで出ていれはすぐに対応出来る様に日頃から信頼関係に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の日頃の様子をご家族様の面会時や電話連絡にてお話しし、何でも気軽に話しかけて頂ける様な関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に見学や相談に来られた際に最優先のニーズが何かを汲み取り、御本人様に最善のサービスつ繋がる様に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬しつつ生活するにあたり色々なアドバイスを頂いたり、日頃からコミュニケーションをとる事により関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様らしい最善の生活が出来る様に、面会にご家族様が来られた際に職員と話しあったり、遠方の御家族様には電話連絡にて近況報告を行いながら御本人様を支える関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的にご家族様が来られてご本人様と海岸ドライブへ行かれたり、馴染みのあるカラオケ店に行かれたりと関係が途切れない様に努めている。	馴染みの美容院や料理店、カラオケ店、思い出の若松海岸、神社等、家族との連携も図りながら、個別の外出支援に力を入れている。年賀状等、書信のやり取りを支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方が孤立しない支援として、入居者同士で一緒に買い物やケーキを食べに行く事によりお互いに話しが弾む様な環境作りにと努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院さで退去された場合は面会に行ったり、定期的に電話連絡を行い繋がりをもち相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が日頃話している会話からどのような要望があるのか個別支援として行っている。また、ご家族様が面会に来られて際に例えば理美容につれていってほしいとあれば実践している。	個人記録や周知ノートを活用し、日常の中の本人、家族の言葉や希望、職員の気づき等を記録し、職員間で共有している。現在、個別支援の充実に向けて、外出支援に力を入れている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の言動やご家族様から聞いた今までに知らない情報は周知ノート及び介護記録に記載し職員の情報共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者様の生活の中において出来る事と出来ない事を職員は見極めてたり、表情を観察する事により心身状態を把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様とご家族様の立場からどのような事でも話しやすい環境を作り、色々な話し合いを重ねていく上でご本人様のニーズの優先順位を考えて介護計画を作成している。	本人、家族の参加する担当者会議を開催している。主治医や看護師の意見も反映し、職員間で検討しながら介護計画を作成している。計画に基づいた記録を意識し、毎月のモニタリング・カンファレンスを通じて現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様の日々の生活での情報を介護記録に記載し職員で情報共有している。また、月に一度のモニタリングにて介護計画の見直しを行い、よりよい介護計画になる様に実践している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の入居者様やご家族様の要望により近くのスーパーまでの買い物や周辺の散歩、海岸ドライブ等に臨機応変に個別支援を提供させて頂いている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	竹末公民館において地域の方と一緒に味噌作り毎年行われている竹末祇園にて作成するしぶき作りに貢献されたりと地域の中で安全で豊かな暮らしを楽しんで頂ける様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様とご家族様の納得が得られた母体となる医療法人のかかりつけ医と連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。受診結果や新しい処方については職員が周知徹底出来る様に周知ノートを作成している。	母体となる医療機関との密な連携体制が構築されており、訪問診療や訪問看護による医療ニーズへの対応や健康管理、急変時の対応等を通じて、適切な医療を受けられるよう支援している。他科受診については、家族との連携を図りながら、情報共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様が発熱や転倒等があればクリニックの看護師に報告・連絡・相談を行いかかりつけ医に繋げる事により適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より細やかな面会により担当看護師やMSWの方と日頃の状態等の情報収集や相談に努め入居者様が1日でも早く退院して頂ける様に病院関係者と関係づくりを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けたアンケートを3ヶ月に1回行いご本人様とご家族様の意向を確認している。ご家族様と医師が話し合いの場をもち方針を共有している。また、看取りについて勉強会を1ヶ月に1回行い、亡くなる瞬間まで「生きる」事をお手伝いさせて頂いている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について事業所としての方針を説明し、同意を得ている。また、3ヶ月ごとに「事前確認書」を用い、意向を確認している。経験豊かな職員も多く、多職種連携によるチームケアの質を高めながら、看取りの実績もある。関連法人と共に、看取り委員会の設置や認知症カフェにてハッピーエンディングについて講座が開催されている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングにて入居者様の急変時や事故発生時に対するのロールプレイングをにより体で覚える事で実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。訓練をする際には消防署の方、防火設備の業者の方、近隣の方、同法人事業所からの連携を行う事で協力体制を築いている。	年2回、消防署の指導のもと、昼夜を想定した避難訓練を実施している。近隣には訓練実施のチラシを配布し、地域や家族との連絡網も作成されている。また、民生委員の方の協力や、近隣に位置する関連法人施設より応援が駆けつける体制がある。災害マニュアルは整備され、非常食、飲料水、緊急持ち出し品等の備品が整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生を重ねられた先輩として尊重し、言葉遣いや対応にはロールプレイングを行う事により職員は一人おひとりの入居者様の誇りやプライバシーの大切さを再認識している。	個別の生活リズムや時間の流れを尊重し、起床や食事の時間はその日の状況に応じて柔軟に対応している。倫理及び法令遵守、プライバシー保護等の内部研修が実施されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の入居者様の何気ない会話から職員はどのような事をされたいのか汲み取り自己決定して頂けるさまに働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュール管理で動かれるのではなく、入居者様の意思を最優先に尊重し「その人らしくあるがままに」の理念に沿った一日を暮らしで頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に外出される際はご自分で好きな服を選んで頂ける様に配慮している。また、ご本人の意思で選び事が困難な方は職員が会話の中から引き出せる様に努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所を囲んで入居者様と職員が一緒になって野菜を包丁で切ったり、煮物の味付けに対して話し合ったりとお互いに協力して日々楽しみながら行っている。	日常や家族からも情報を得ながら、嗜好の把握に努めている。定期的な食材の買い物や包丁を用いて野菜を切ってもらったり、味付けや後片付け等、調理のプロセスに入居者の方々も参加する機会がある。パンの移動販売を利用したり、スイーツの購入や個別支援で外食に出かける等の支援が行われている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々食事摂取量や水分量を記録に記載し把握している。食事量や水分をあまりとられない方はご家族様にどのような食事を好まれるのかお聞きしたり、かかりつけ医に相談し支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の入居者様に出来る範囲でして頂き、職員が最後に一部介助を行い口腔内の細まめに観察を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により職員は個別の排泄パターンを把握し入居者様からの要望やサイン見逃さず声掛けに気を付けてトイレまで誘導を行っている。	排泄チェック表により個別のパターンを把握し、トイレでの排泄を基本として個別の支援を行っている。失禁の減少に向けて細やかな声掛けや誘導を行い、布パンツへ移行された方もおられる。便秘予防として食物繊維の多い食品や牛乳の摂取、体操や腹部マッサージ等を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を意識した物を提供している。また、細めに水分補給を行っている。毎日、体操に入居者様参加して頂き体を動かす事で便秘改善に努めている。また、入居者様がお好きなさつまいもをおやつに提供し工夫している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の要望を取り入れて入浴を楽しんで頂いている。特に午前中の中の入浴が好評であり朝風呂の湯船につかれる事で笑顔が見られ個々にそった支援をしている。	毎日入浴を準備し、朝風呂は贅沢な気分になれると好評で、状況により夜間の中の入浴にも対応可能である。個別の湯加減への配慮やコミュニケーションを深める時間としても活用し、拒否される場合にはタイミングや声かけを工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自室で少し横になりたい方や腰の痛み等見られる方は適宜臥床して頂いている。夜間帯は照明、室温、物音、布団の調整を細めに行い安眠出来る様に繋げている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の新しい処方があった場合は薬剤師からの説明を把握すると共に、周知ノートに薬の情報を記載し職員は把握している。また、服薬後の御様子を記録し観察を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からされていた事で裁縫が得意な方はぞうきんを縫ったり、食事でごぼうのさがきが手際よくされたりと思いいきに生活されている。気分転換にケーキ屋へおつれしお好きなケーキを選ばれ食べられるのを楽しみにされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのドラッグストアまで買い物に行きたい際にはおつれしお好きな嗜好品を選んで購入して頂いている。天気の良い日は出来るだけ周辺の散歩におつれし季節感を味わって頂いている。また、ご家族様の協力のもと定期的に海岸ドライブを支援している。	現在、個別の外出支援に力を入れている。本人や家族より情報を得ながら、担当者が月に一度外出プランを検討し、馴染みの百貨店や神社、ペットショップ、思い出の海岸等の外出支援を企画している。今後はアセスメントや介護計画との連動も期待される。家族の協力により、定期的なドライブも実施されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にてお金を管理させて頂いているが、入居者様やご家族様が希望されている際はご自分でお金を持たれ買い物へ行かれる際は使われている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からの要望でご家族様と連絡をとりたい時はいつでも対応できる様に支援しており電話をされる事で安心感が見られている。また、年賀状を出来る範囲でご家族様へ書いて頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自席にて窓から眺める景色により春夏秋冬の季節感を味わうことが出来る。昭和の時代を思い出させる畳の部屋や木造の作りが皆様を和ませる環境になっている。	柱や建具等、木の風合いがどこか懐かしく、落ち着いた日本家屋の雰囲気がある。キッチンの傍にテーブルが置かれ、入居者の方々が調理に参加したりと、生活感が伝わってくる。ベランダ越しに隣接する公園が眺められ、木々の色合いの変化や地域の方々の様子を見ることが出来る。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合われる入居者様同士で楽しく話が出来様に自席を動かしたりベランダに一緒に席を並べてお互いに笑顔になられる様な環境作りに努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使われていたテレビやタンスを持ちこまれ家におられた生活空間となるべく同じ様に生活して頂く様に工夫している。また、ご家族様が面会に気軽に来て頂く様にテーブル等の配置も工夫している。	居室は和室の設定となり、入口には木製の引き戸、窓には障子が設置され、どこか懐かしい日本家屋の安心感がある。箆笥やテーブル、椅子、テレビ等が持ち込まれ、生活感ある居室が多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様がトイレ内の手すりを持ってトイレをされたり、浴槽から上がられる際も手すりを持って出来るだけご自分の力でして頂ける様に支援している。		